

エテオピアにおける
デジタルアーカイブの挑戦

高精度オーバーヘッドスキャナ
Bookeyeシリーズの提供

リアルタイム字幕入力な
ブロッグチェーン技術を用いた
デジタル記録の基盤づくり

世界の文化機関が公開する
日本文化資源の活用
集約・横断検索システム

DAPCON

失われた文化財の
デジタル推定復元

小規模館向け図書館システム

「情報館」へのデジタル資料公開機能の実装

群馬デジタルミュージアム事業

「Fowald® (フオールド)」アプリおよび
「IPFS (分散型ストレージ)」の活用

Newsletter

STYLY.bizによる
AR島格標本の実現

市民参加型の
3Dデジタルアーカイブ活動
「みんなキャンパ」

「Re:Earth」を活用した
アーカイブス可視化ツール
表示環境の継続性担保

アーススケープ/
artscapeの30年におたる継続・維持

デジタルアーカイブ 推進コンソーシアム Newsletter No. 23

2025 デジタルアーカイブ産業賞

CONTENTS

当日のレポート

受賞内容紹介

2025 デジタルアーカイブ産業賞について

2025年3月25日（水）、「2025デジタルアーカイブ産業賞授賞式・受賞者ショートプレゼンテーション」をオンラインで開催した。冒頭に、石川 和子事務局長が開会宣言を行った後、選考委員を代表して、福田 和樹内閣府知的財産戦略推進事務局参事官、吉見 俊哉 國學院大学教授（デジタルアーカイブ学会前会長）よりご挨拶をいただいた。デジタルアーカイブ推進コンソーシアムは、デジタルアーカイブ産業賞を2019年から開催し、今年で7回目を迎える。本年は、ビジネス賞2件、技術賞3件、貢献賞4件、奨励賞4件の計13件を選出した。発表会当日は、石川 和子 会長より表彰状授与を行った後、受賞者の皆様に受賞内容についてご発表いただいた。



参加者集合写真

■ 式次第

1. 開会宣言：石川 和子 会長
2. 選考委員ご挨拶 福田 和樹 氏（内閣府知的財産戦略推進事務局参事官）、吉見 俊哉 國學院大学教授（デジタルアーカイブ学会前会長）
3. 表彰状授与式 石川 和子 会長
4. 受賞者による受賞内容のショートプレゼンテーション

ビジネス賞

- 株式会社ローカルメディアラボ／「エチオピアにおけるデジタルアーカイブの挑戦」
- ユニバーサル・ビジネス・テクノロジー株式会社／「高精度オーバーヘッドスキャナ Bookeye シリーズの提供」

技術賞

- 株式会社NFTDrive／「リアルタイム字幕入力などブロックチェーン技術を用いたデジタル記録の基盤づくり」
- 株式会社NTTデータ／「IPFS（InterPlanetary File System）を用いた参加型アーカイブの試み」
- TOPPAN 株式会社／「失われた文化財のデジタル推定復元」

貢献賞

- 株式会社ブレインテック／「小規模館向け図書館システム「情報館」へのデジタル資料公開機能の実装」
- 群馬県／「群馬デジタルミュージアム事業」
- Cultural Japan／「世界の文化機関が公開する日本文化資源の集約・横断検索システム」
- 大日本印刷株式会社／「アーツスケープ/artscapeの30年にわたる継続・維持」

奨励賞

- 株式会社NTTデータNJK／「STLY.bizによるAR骨格標本の実現」
- みんなキャブ運営委員会／「市民参加型の3Dデジタルアーカイブ活動「みんなキャブ」
- 株式会社ユーカリヤ／「アーカイブス可視化ツール『Re:Earth』を活用した表示環境の継続性担保」
- 石川県／「令和6年能登半島地震アーカイブ」

受賞者の皆様より、受賞内容についての紹介をご寄稿いただいた。

ビジネス賞

株式会社ローカルメディアラボ／
「エチオピアにおけるデジタルアーカイブの挑戦」

株式会社ローカルメディアラボは、2018年度の佐賀県立図書館での取り組みを契機に、国内各地の公共図書館や大学図書館に向けたデジタルアーカイブ構築を支援してきました。IIIF (International Image Interoperability Framework) への対応やライセンス管理、横断検索など、機能はシンプルながら、資料管理のしやすさに配慮したUIと高い拡張性・カスタマイズ性をご評価いただいています。

2024年度には、本システムの海外展開可能性を探るため、総務省の「安全性・信頼性を確保したデジタルインフラの海外展開支援事業（地方枠）」に採択され、エチオピアでの調査を実施しました。首都アディスアベバを中心に、図書館、公文書館、博物館、大学等を訪問し、資料保存やデジタル化の現状を調査しました。その結果、貴重な資料が数多く残る一方で、保存環境やデジタル化の遅れが大きな課題であることが明らかになりました。

現地では国立アブレホット図書館とMOUを締結し、継続的な

協力関係を構築しています。本事業を通じ、途上国におけるデジタルアーカイブの必要性を強く認識しました。2026年以降はJICAの支援のもと、現地での取り組みをさらに推進していきます。地方発の小さな企業ではありますが、文化資源の保存と活用に貢献する仕組みを、世界へ展開していくことを目指しています。



ビジネス賞

ユニバーサル・ビジネス・テクノロジー株式会社／
「高精度オーバーヘッドスキャナ Bookeyeシリーズの提供」

この度、弊社のボックスキャナー Bookeye5に、デジタルアーカイブ推進コンソーシアム (DAPCON) 様主催の栄えある2025年デジタルアーカイブ産業賞を賜りまして、誠にありがとうございました。

Bookeyeシリーズは、アーカイブ事業（古典貴重書、本、雑誌、図面等の電子化等）を行っている数多くの機関でご利用頂いているボックスキャナーのモデルで、全世界で幅広く使われております。主なお客様の分野は、

- 全国の図書館、専門図書館、公文書館
- 大学、研究機関、博物館、資料館
- 行政機関
- 民間サービス・印刷会社

などです。

非接触で本を解体したり傷めたりすることなく、上向きの撮影で、効率よく撮影ができます。

最高画質は光学解像度600dpiの業界最高峰の実力で、段差調整機能付きクレードル、歪みの補正機能などもあります。

また、アーカイブモデルでは、V字ガラスとフラットガラス（オプション）の取り換えが可能なので、対象文献の状態（例えば、本

が古くて180度開けない場合など）に合わせて最適な撮影方法が選択可能です。

撮影可能サイズも、A3+50% (V3モデル) ～最大A1 (V1Aモデル) まで可能です。

また電子化用途だけでなく、図書館での複写サービス業務や、行政書類、契約書、ファイル冊子のスピーディーな電子化にも使えます。

弊社では、ボックスキャナー以外にも、全自動のスキャンロボット、大判の平物文書（古地図、アートなど）のスキャンが可能なワイドフォーマットスキャナーや透過型のフィルムスキャナー、マイクロフィルムスキャナーなど様々な機種を総合的にご紹介しております。

是非皆様のお役に立てましたら幸いです。宜しくお願い申し上げます。



技術賞

株式会社 NFTDrive ／
「リアルタイム字幕入力などブロックチェーン技術を用いたデジタル記録の基盤づくり」

ブロックチェーン技術を活用し、データファイルを直接チェーン上に保存することで、デジタル記録の真正性を誰で

も検証可能とするアーカイブ基盤 (BDA: Blockchain Digital Archive) の構築を進めています。弊社のデータ保

存ツール「NFTDrive」では、すでに数千件を超えるデジタルデータをブロックチェーンへ記録しています。

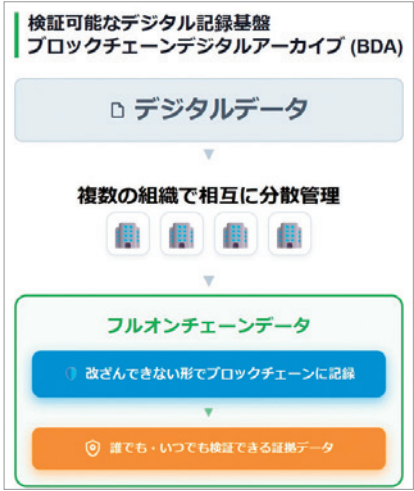
従来のデジタルアーカイブは、管理主体を信頼することで記録の正しさを担保する構造に依存してきました。しかし、長期保存や第三者による再利用が前提となる現代においては、「誰が管理するか」ではなく、「どのような仕組みで記録されているか」が重要になりつつあります。

本基盤では、データをファイル単位でブロックチェーンに記録し、履歴や検証情報を保持する構造を採用しています。これにより、改ざん耐性やタイムスタンプ、記録の不可逆性といった特性を活用し、記録の生成から保存、参照に至るまでの過程を一貫して検証可能としました。

さらに、リアルタイム字幕入力などのユースケースにも適用し、生成過程を含めた記録の完全性を担保する取り組みを進めています。これにより、記録そのものに加えて「誰が・どのように生成したか」という責任の所在も追跡可能となります。

本技術は、学術分野における研究成果の保存・公開にとどま

らず、行政文書や文化資産、企業データなど幅広い領域への応用が可能です。今後は、「信頼」から「検証」、さらに「責任の可視化」へと基盤を発展させることで、長期的に価値を持ち続けるデジタルアーカイブの新たなあり方を提示していきます。



技術賞

株式会社NTTデータ／ 「IPFS (InterPlanetary File System) を用いた参加型アーカイブの試み」

NTTデータはこれまで、文化芸術の継承はこの社会の持続的発展に不可欠であるという思いにもとづき、さまざまな文化資源のデジタルアーカイブを支援してきました。それらの取り組みの中で、デジタルデータの長期的な保存に関する課題と、デジタルアーカイビングの活動に対する持続性の課題が明らかになってきました。

本取り組みはこれらの課題に対するコンセプト提案です。誰もが身の回りの有形・無形の文化財や、街、地域、生活の写真を、アーカイブの対象としてスマホを通してアップロードすることができる仕組みを構築しました。そしてその写真データを、複数の主体が提供するストレージにデータを分散保存して共有・管理する、分散型のストレージシステムである IPFS (InterPlanetary

File System) に保存した上で、これを活用することができる仕組みをつくり、その検証を行いました。投稿されたデータの一部は、国立歴史民俗博物館様の特別展「歴史の未来—過去を伝えるひと・もの・データ—」での展示ブースの一角でご紹介いただき、誰もが記録者となりうるアーカイブの未来を体感いただく機会を得ました。

私どもは今後も、短期的には見えにくいデジタルデータ長期保存固有のリスクへの対応や、アーカイブされる情報資源を活用した新しい発見体験・利活用体験の創出、さらにはAI活用によるデジタルアーカイビング活動の支援など、デジタルアーカイブとその活用における技術開発に努めてまいります。

技術賞

TOPPAN 株式会社／ 「失われた文化財のデジタル推定復元」

TOPPAN 株式会社／伊藤若冲《釈迦十六羅漢図屏風》 デジタル推定復元プロジェクトについて

《釈迦十六羅漢図屏風》は、今日では日本を代表する絵師として高い評価と人気を誇る伊藤若冲の作とされています。しかし、戦災によって焼失したと考えられ、長らくその存在すら一般にはほとんど知られてこなかった作品です。私たちはこれまで、《大坂冬の陣図屏風》(東京国立博物館蔵)のデジタル想定復元や、クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》

(国立西洋美術館蔵)のデジタル推定復元など、失われた文化財・美術作品の復元に取り組んできました。本件では、

伊藤若冲《釈迦十六羅漢図屏風》デジタル推定復元
制作・所蔵：TOPPAN 株式会社 監修：山下裕二、荒井経



そこで蓄積された知見と技術をもとに、本作品の姿を現代に再び立ち上がらせることを目指しました。

当時の屏風の姿を伝える手がかりは、精緻な印刷による白黒図版のみでした。そこから、若冲独自の表現技法である「柘目描き」の使用を読み取りました。同描法を用いた類例作品の調査を通じて、用いられた絵具やその組み合わせ方などについて検討しました。さらに、図録に掲載された図版の撮影条件にも着目し、想定される絵具が白黒写真

上でどのような濃淡や階調として現れるのかを検証しました。これら複数の検討を統合することで、往時の色彩の復元を目指しました。

先人が残した記録をアーカイブデータとして再活用することは、失われた文化財に新たな価値と解釈の可能性を見出す文化継承の手法の一つとなるはずです。同時に、それは私たちが未来に向けてどのようなアーカイブを残すべきかを問い直す重要な契機にもなると期待しています。

貢献賞

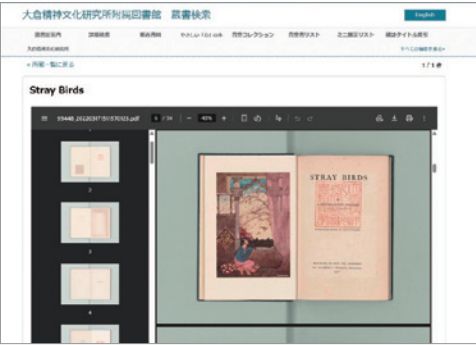
株式会社ブレインテック／
「小規模館向け図書館システム「情報館」へのデジタル資料公開機能の実装」

このたびは2025年デジタルアーカイブ産業賞「貢献賞」という栄えある賞を賜り、誠に光栄に存じます。受賞理由を「研究から学んでの小規模館向け図書館システム『情報館』へのデジタル資料公開機能の実装」と伺い、本機能の開発に込めた当社の思いを評価いただけたことを大変嬉しく思います。

当社は40年以上、小規模図書館のためのシステム開発を続けてまいりました。本機能の実装にあたっては、江草由佳氏（国立教育政策研究所）や阿児雄之氏（東京国立博物館）による「小規模図書館における持続可能なデジタルアーカイブ：スリムモデルと外部連携」等の研究・実践から学び、既存の図書館システムとOPAC（蔵書検索システム）にデジタル資料公開のためのオプション機能を追加することで、小規模図書館が廉価に長く使える仕組みを目指しました。多くのデジタルアーカイブシステムが備えるギャラリー機能やIIIF対応はジャパンサーチ等の連携先サービスに委ね、連携の伴走支援も行っています。

導入事例としては、貴重コレクションの公開を行う大倉精神文化研究所（<https://okuraken-lib.opac.jp/>）や、企業内で業務文書公開に利用する東京海上日動火災保険図書史料室などがあります。また、自社の「tekute cross library」のOPAC（<https://braintech.opac.jp/>）では、自社の活動記録を公開する実践を通じて、活用の提案も行っています。

私たちは、今後も「デジタル資料公開機能」が、小規模図書館のデジタルアーカイブのファーストステップとなることを願っています。



貢献賞

群馬県／
「群馬デジタルミュージアム事業」

この度は、デジタルアーカイブ産業賞「貢献賞」という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。

群馬デジタルミュージアム事業は、県立美術館・博物館の収蔵品をデジタルアーカイブ化するとともに、デジタル技術を活用したコンテンツを作成・活用することで、魅力に溢れる公共空間を創出するものです。

群馬県では、県立美術館・博物館で価値ある収蔵品を所有しながらも、その魅力の発信が課題となっていました。そこで、収蔵品をデジタルアーカイブ化し、県内各地でデジタル展示を行うことで、博物館資料を活用しています。

具体的な事業としては、令和5年度～令和7年度にかけて、各年度に収蔵品のデジタルデータ化を行い、収蔵品の鑑賞体験が楽しめるデジタルコンテンツを作成して、それらを活用した体



験イベントを県内各地で実施しました。

各年度において館外での博物館資料の活用を行っており、今年度作成したコンテンツでは、場所を限定せずにMRキットさえあれば、どこでも鑑賞イベントができるものとなっています。そのため、今後は、今年度に作成したコンテンツを活用し、場所や時間にとらわれずに、美術館・博物館をはじめとしたさまざ

まな形で活用することを目指して参ります。

また、価値ある収蔵品の魅力を、デジタル技術を用いて、館外で発信することで、まだ群馬県立美術館・博物館に來たことがない方が関心を持ち、実際に足を運ぶきっかけとして提供していきたいと考えております。

貢献賞

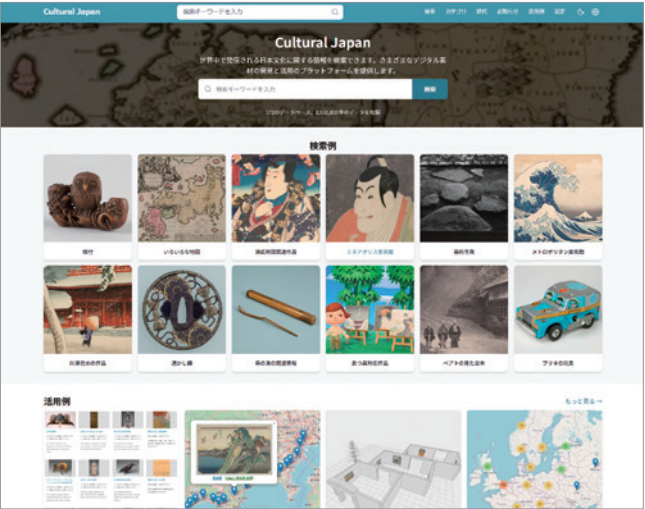
Cultural Japan / 「世界の文化機関が公開する日本文化資源の集約・横断検索システム」

カルチュラル・ジャパン (Cultural Japan) は、世界中の美術館、博物館、図書館などで公開されている日本文化関連の情報を集約し、利用しやすい形で提供することを目的として、有志のチームにより2020年に開設されたプロジェクトです。日本国内のこれらの情報を集めたジャパンサーチのデータに加え、メトロポリタン美術館、シカゴ美術館などの海外美術館やポータル公開データから日本関連アイテムを収集しており、2026年3月現在の収録データは、172のデータベースから約153万件となっています。異なる所蔵館の多様なデータを、ジャパンサーチ利活用スキーマに準じたRDF (Resource Description Framework = 機械可読なグラフ情報記述の国際標準) に変換して柔軟に利用できるようにするとともに、簡単に検索・閲覧できるウェブサイトも用意しており、絵画、写真などの種類別、所蔵国別、時代別などさまざまな切り口で利用可能です。

プロジェクトでは、収録情報を用いて広重の東海道五十三次シリーズを地図上で切り替え表示したり、モデルを拡張して過去の展覧会情報を提供するという応用を試みています。また気に入った作品を集めて自分専用の3D仮想美術館をつくることがで

きる「セルフミュージアム」のような派生プロジェクトも生まれ、データ利用の可能性を広げています。

日本文化の情報をより多くの人々に活用していただけるよう、今後もデータの充実とサービスの向上に努めてまいります。



貢献賞

大日本印刷株式会社 / 「アーツスケープ/artscapeの30年にわたる継続・維持」

この度はアート情報サイト「artscape (アーツスケープ)」の30年にわたる活動に対し、「貢献賞」を賜り、深く感謝申し上げます。

「artscape」は、Museum Information Japan (MIJ) および Network Museum & Magazine Project (nmp) を前身として、1995年にDNPの文化活動として産声を上げました。

当時、美術館が自らHPを持つことは稀でした。インターネットを通じて、全国の美術館・博物館・ギャラリーと生活者をつなぐ、それが創設の理念であり、メディアや技術の変遷を経た今も、変わらぬ使命です。

以来30年、サイトでは創設当初の記事をデザインそのままに公開し続けており、5万件を超える記事は今、90年代からの日本のアートシーンを辿ることができるアーカイブ資料として機能しています。

artscapeの特別編集委員の一人からは、「artscapeにはアートにおけるインフラのような価値がある」という言葉をいただきました。一過性の情報発信に留まらず、執筆

当時の文脈を含めて残し続けることの重要性を、改めて認識しております。

このたびの受賞は読者やレビュアーの皆さまをはじめ、美術館/博物館/ギャラリーや研究者・作家の皆さまとともに歩んできた30年間への評価として、深く受け止めております。今回の受賞を糧に、今後も様々なアートシーンを広く記録・発信し、未来へと繋いでまいります。



アーツスケープ
ウェブサイトへ



https://artscape.jp/

奨励賞

株式会社NTTデータNJK／ 「STYLY.bizによるAR骨格標本の実現」

博物館が所蔵する標本の多くは収蔵庫に保管されており、展示されるものは一部に限られています。展示品であっても、ケース越しの観覧では背面や内部構造の確認は困難です。当然ながら、来館できない利用者には届かないという物理的制約もあります。

本取り組みでは、一般社団法人路上博物館および国立科学博物館と連携し、XRプラットフォーム「STYLY.biz」を活用して骨格標本のデジタルアーカイブをAR体験として実空間上に展開しました。フォトグラメトリー技術により哺乳類10種の頭骨を高精度に3Dデータ化し、ARポストカード裏面のQRコードをスマートフォンで読み取ることで、現実空間にAR骨格標本を表示できる仕組みを構築しています。

AR画面上では拡大・回転・つかんで移動といった直感的な操作が可能であり、博物館では観察が難しい口腔内部の確認や、CTスキャンのように骨格形状を透過表示するガラス表現にも対応しています。さらに、標本データの更新を容易にする専用機能を開発し、研究の進展や展示変更に応じた柔軟な運用を実現しました。

本取り組みはクラウドファンディングにおいて目標の761%となる約760万円の支援を獲得し、3Dプリントレプリカとあわせて標本活用の新たなモデルを提示しました。今後もSTYLY.bizを通じて、デジタルアーカイブの「保存」から「活用」への展開を推進してまいります。



奨励賞

みんキャブ運営委員会／ 「市民参加型の3Dデジタルアーカイブ活動「みんキャブ」

この度は、デジタルアーカイブ産業賞2025において奨励賞を賜り、身に余る光栄です。私たちの活動「みんキャブ」は、3Dスキャン技術を用いて、身近な興味ある「アレコレ」を3D地図上に記録する市民活動です。その集大成として2024年、書籍『ぼくらのみんキャブデジタル博物館』を出版いたしました。

本書は、長野市立更北中学校ものづくり部理科班の生徒たちが取り組んだ、デジタルアーカイブによる「探究学習」の記録です。長野市立博物館の全面協力のもと、生徒たちが自らの手で実物をスキャンした精巧な3Dモデル図録を前半に、そして活動の試行錯誤や喜びを分かりやすく描いたマンガを後半に収めました。専門的な技術を中学生が使いこなし、地域の歴史と対話するプロセスそのものを一冊の「物語」として可視化した点が、私たちの大きな挑戦でした。

須坂市技術情報センターをはじめ、多くの関係各位の温かいご支援により、技術を「自分たちのもの」として楽しむコミュニ

ティが育っています。今回の受賞は、こうした教育・地域・技術が三位一体となった活動への期待であると確信しております。

3Dを取り巻く技術の進化は目覚ましいものがあります。今後も100年後の未来へ「今の空気感」をカジュアルな技術で届けるべく、楽しみながらアーカイブを続ける輪を広げてまいります。共に歩んでくださった皆さまと、この喜びを分かち合いたいと思います。



奨励賞

株式会社ユーカリヤ／ 「アーカイブス可視化ツール『Re:Earth』を活用した表示環境の継続性担保」

この度、データプラットフォームRe:Earthに奨励賞を賜り、心より御礼申し上げます。私たちEukaryaは、「データをより多くの人にとってひらかれたものにする」を合言葉に、Re:Earthの開発・提供に取り組んでいます。Re:Earthは、都市データや地理空間情報をはじめとした多様なデータを、より多くの人々が活用できる環境の実現を目指しています。私たちは、データ活用やオープンデータの価値は単なる可視化にとどまらず、それを起点に意思決定や新たな価値創出につながる点にあると考えます。そのため、官公庁、自



治体、企業、研究機関、国連機関など多様な主体と連携し、データ活用や地域課題の解決、文化・歴史の可視化など幅広い分野での実践を進めてまいりました。また、Re:EarthはOSSとしても公開し、CMSやVisualizerといったエコシステムとして提供し

ています。これにより、誰もがデータを継続的に管理・更新・発信できる仕組みの構築に取り組んでいます。今後もRe:Earthを通じて多様なデータと活用の可能性を拡張し、「データと人・社会をつなぐ基盤」としての役割を果たしてまいります。

奨励賞

石川県／ 「令和6年能登半島地震アーカイブ」

この度、栄誉ある賞を賜りましたことについて、誠に感謝申し上げます。

石川県では、本災害の記録と教訓を後世に継承し、幅広く災害対策・対応に活かしていただくため、2025年1月29日に「令和6年能登半島地震アーカイブ 震災の記憶 復興の記録」として災害デジタルアーカイブを公開しました。

令和6年能登半島地震および令和6年奥能登豪雨は、1年と間を置かず発生し、異例の複合災害となりましたが、その被害状況や対応の過程で得た教訓・ノウハウ等、そして能登の「創造的復興」の過程を震災関連資料として収集・保存・公開しています。

アーカイブの構築にあたっては、デジタルアーカイブ学会をはじめ学識経験者の方々とも議論し、著作権などへ配慮した提供条件やセンシティブ情報の処理基準などを策定しました。そして、石川県内だけでなく、復旧・復興に携わった国や全国の自治体、民間支援団体等の関係機関、一般の方からも資

料を提供いただき、約24,500点（R8.3時点）の被災状況や復旧状況の記録などの資料を公開しています。また、東京大学と連携して制作した被災箇所の3Dコンテンツや、県内の大学生が収集した被災者や支援者の実体験に基づく証言記録、マスメディアが公開している情報の紹介コーナーなどのコンテンツも掲載しています。

引き続き、被災した能登の市町とも連携しながら、資料の充実やコンテンツの拡充に取り組んでまいります。



Topics 2025 デジタルアーカイブ産業賞について

1 「デジタルアーカイブ産業賞」趣旨

デジタルアーカイブ産業振興に寄与した活動を称揚することによって、デジタルアーカイブ産業及びデジタルアーカイブ推進コンソーシアムへの社会的関心を高めるとともに、産業の発展に資する。各年度で選考し、発表・授賞式を行う。

2 選考委員・作業部会員

〈選考委員〉(50音順)

石川 和子	DAPCON 会長（日本アニメーション株式会社社長）：委員長
福田 和樹	内閣府知的財産戦略推進事務局参事官
高野 明彦	国立情報学研究所名誉教授
寺田 航平	寺田倉庫社長／経済同友会副代表幹事
吉見 俊哉	國學院大学教授（デジタルアーカイブ学会前会長）

〈作業部会員〉(50音順)

植山 秀治	TOPPAN 株式会社
岡本 真	アカデミック・リソース・ガイド株式会社
川島 健一	株式会社NTTデータ
神崎 正英	ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表
小林 慎太郎	株式会社野村総合研究所
宮本 聖二	立教大学特任教授
室田 秀樹	大日本印刷株式会社

3 各部門賞概要

ビジネス賞：過去5年以内を対象としてデジタルアーカイブ産業の新しい分野・ビジネスモデルを開拓し、普及・活用等に優れた貢献をした個人・企業・機関・団体を対象とする。

技術賞：前年度に発表または実施したデジタルアーカイブ産業に資する革新的な技術・手法・サービス・機材・システムを対象とする。

貢献賞：期間を問わず、デジタルアーカイブ産業の発展に大きく寄与した個人または団体を対象とする。

奨励賞：今後更なる発展が期待されるデジタルアーカイブ産業の個人・企業・機関・団体を対象とする。